



氣田 量子
(自民公明クラブ)

医療用ウィッグ 乳房補正具の購入に助成を

支援内容を検討する

問 抗がん剤治療の副作用の悩みを持つ方へ、前向きに治療に励み、自身の持つ治癒力と相乗効果が最大限発揮できるよう医療用ウィッグ、乳房補正具購入費用に助成する考えは。

答 支援内容について検討を進めたいと考えています。

問 病児・病後児保育事業の利用者から困っているとの相談が寄せられている。保育時間を延長できないか。

答 委託先の十和田東病院からは保育士の雇用の追加や小児科医の勤務時間も延長することになると伺っているため、難しいと考えています。

問 定員人数を増やせないか。

答 年間を通した利用ニーズを踏まえ、現時点では考えていません。

問 多子世帯の利用料金を助成できないか。

答 今後の状況を見ながら、必要に応じて調査研究したいと考えています。なお、令和5年度からは新たに低所得世帯を対象に利用料を免除することとしています。

問 中央病院に増設する考えは。

答 利用実績やニーズ調査の結果を踏まえ、現時点での増設は考えていません。

問 派遣型保育の体制を作る考えは。

答 年間を通しての利用が見込まれない状況のため、難しいと考えています。

問 市で以前行っていたブックスタート事業を、関係者と情報を共有し、再スタートする考えは。

答 絵本のプレゼントを行う予定はありませんが、引き続き乳幼児健康診査や図書館での読み聞かせ活動を実施し、子供が読書に親しむ機会の提供に努めていきたいと考えています。



斉藤 重美
(自民公明クラブ)

どぶろく特区認定を受け 特産品として売り出しては

農家民宿経営者等に 意向確認し検討

問 国からどぶろく特区（構造改革特区）の認定を受け、市内農家でどぶろくの製造や販売を可能にすることで、米の消費拡大や、これらを提供することによる誘客の促進、大人も楽しめる観光推進のツールとして、都市との交流拡大や雇用機会の拡大と定住化などの効果が見込まれる。どぶろく特区の認定を受け、特産品として売り出してはどうか。

答 特区認定を受けた場合でも、誰もが自由にどぶろくを作れるわけではなく、製造に当たり農家民宿や農家レストラン等を営む農業者であること、自らが生産した米を原料とすること、特区内で自ら製造すること等の条件を全て満たす必要があることから、市としては、まずは継続してどぶろくを製造・販売することについて、農家民宿等を営む農業者の意向を確認した上で、当該制度の活用を検討していきたいと考えています。

問 昨年8月の大雨により法量地区両泉寺付近の奥入瀬川の坊主堰頭首工が流失したが、この頭首工から取水し、水稻作付をしている農家もいる。復旧まで数年を要するものと思うが、復旧工事の期間は農家にどのような対応をするのか。

答 現在、復旧工事の着手に向けて設計中ですが、2か年にわたって復旧工事を行うことが想定されています。そのため、工事期間中も水稻作付が可能となるよう、昨年末に当頭首工を利用している3つの水利組合に事前の説明会と要望の聞き取りを行い、協議の上仮設にて対応することで合意を得ています。早期に復旧工事が完了できるよう、事務処理等の遺漏なく事業を遂行していきたいと考えています。